

自分の考えを大切に

国府小・2 金子 結愛

わたしは毎日どんなふくをきょうか考えるのが好きです。とくに、うごきやすいズボンがお気に入りです。だからこの本を読んで、むかし女の子は自ゆうにズボンをはいてはいけないかったと知り、とてもおどろいたし、わたしにとつて考えられないことでした。

この本は、メアリーという女の子がたくさんの人にはんたいされたり、いじめられたりしたけど、まけずにのりこえて、女の子が当たり前前にズボンをはけるようにかえていくお話です。わたしがとくに心にのこったところは、メアリーがズボンをはいて町に出かけたときに、たくさんの人から

「こうかいするぞ。」

と言われたところです。メアリーはおかしいことをしていないのに、どうしてそんなことを言われるんだろう。わたしはとてもかわいそうだと思いました。でも、メアリーはズボンをはきつづけました。ズボンは男の子のふくではなく「わたしのふく」だと言うメアリーはとてもかっこよかったです。みんなの当たり前をしんじず、自分の考えをしんじてやりつづけるメアリーを見て、みんながかわっていくところは、読んでいるわたしまでうれしい気持ちになりました。わたしもみんなの当たり前と自分のすきなものがちがっていたことがあります。友だちとすきな色の話をしたとき、みんなはピンクやむらさきと言っていたけど、わたしは白と黒だよと言いました。

すると、友だちに

「えー、なんでそんな色なの。」

と言われました。みんなが女の子らしいと思っている色じゃなかったから、そう言われたんだと思います。でも、人から何と言われてもすきなものはすきなもので、むねをはって白と黒がすきだと言うことができました。

この本を読みおえて、人たちがついても自分の考えを大切にしていきたいと、より強く思うことができました。これからも、すきなことや正しいことをやりつづけます。